

研究ノート

認知症高齢者を抱える家族介護者の 介護負担に関する文献検討

—— 日中比較を中心に ——

馮 怡

〔抄 録〕

本稿は、認知症高齢者を抱える家族介護者の介護負担を内容とする文献のレビューである。その結果、日中両国では、認知症高齢者の家族介護者が深刻な状況に陥り、身体的負担をはじめ、精神的負担、時間的負担、経済的負担など様々な問題に直面している現状が明らかになっている。

しかしそのような文献のなかで、家族扶養意識と介護負担との関連性を解明することを目的とする研究、また介護負担に対する肯定的評価を論じた研究は、両国ともに少ない。さらに、中国の場合には、関心度の低さによる研究件数の少なさ、単純化している研究方法、学問視点の偏りと地域格差の無視などの課題が残っていると思われる。

キーワード：認知症高齢者、家族介護者、介護負担、文献検討

1. は じ め に

世界的に高齢化問題が大きな課題となってきた。そのなかでも認知症の課題は国境を越えた普遍性をもって、その深刻さを徐々に増している。中国は人口高齢化という社会の流れに沿い、認知症高齢者問題が顕在化してきている。

中国国家统计局が2018年3月に公表した統計データによると、2017年12月31日現在、中国における65歳以上の人は1億5831万人であり、総人口の11.4%を占めている。そのうち、認知症高齢者数に関する公的統計データはまだ発表されていないが、『ランセット』誌に掲載された研究論文によると、2010年現在中国のアルツハイマー病患者数（以下、「AD患者」とする）はすでに569万人を超えたという状況である（表1）。また、2015年8月に発表された『世界アルツハイマー報告書2015』により、中国のAD患者数は世界一であることが明らかになっ

た。しかも、国の経済状況及び伝統習慣から殆どの認知症高齢者が自宅で家族の介護を受けている（張, 2007）。

表1 中国におけるAD患者数の推移

年 代	AD 患者数（万人）
1990	193
2000	371
2010	569

出所：Chan KY, Wang W, Wu JJ, Liu L, Theodoratou E, Car J, Middleton L, Russ TC, Deary IJ, Campbell H, Wang W, Rudan I; Global Health Epidemiology Reference Group (GHERG). Epidemiology of Alzheimer's disease and other forms of dementia in China, 1990-2010: a systematic review and analysis[J]. Lancet, 2013 (381): 2016-23

介護負担は介護者の健康問題、さらに生活実態に影響を及ぼす重要なものであるため、日本であれ、中国であれ、家族介護者の生活実態及びその支援に関する先行研究は「介護負担」の観点から述べる文献が多数を占めている。したがって、本稿は認知症高齢者の「介護負担」に関する日中の先行研究のレビューを行い、研究動向と到達点を明らかにする一方、残っている課題を整理することを目的とする。

2. 介護負担をめぐる定義

「介護負担」の定義は研究者によって異なり、広範で、現在のところ確固とした定義は存在しないと言えよう。Zarit が介護負担を「親族への介護の結果、介護者が情動的、身体的健康、社会生活及び経済状態に関して被った被害の程度」と定義して以来、その概念が世界中に広がり、介護負担に関する先行研究の多い欧米の研究例では、「負担」について、一般的に「burden」という用語が多く使われるようになった¹。

その後、様々な定義や概念にもとづき、多くの評価尺度が開発されたが、それらに共通点として、「身体的負担」「精神的負担」「経済的負担」「家事の制約」「自由時間や社会活動の制約」などがよく挙げられる（羽生, 2011）。たとえば、ホン・グラギ（2004）は介護負担を「社会的な活動の制限」「高齢者及び家族関係の否定的な変化」「心理的負担」「財政及び経済活動上の負担」「健康上の負担」の5つに分けている。鄒（2014）は介護負担を「時間依存性負担」「発展負担」「生理性負担」「社交性負担」と「情緒負担」に分けており、「依存性負担」が最も重く、「発展負担」>「生理性負担」>「社交性負担」>「情緒負担」という順になっている。

以上の「介護負担」をめぐる諸定義は用語がやや違っているが、主たる内容はほぼ同じである。しかし、上記の「介護負担」の解釈はほとんど消極的なものに過ぎず、肯定的な介護評価

に触れる研究文献は少ない。今後、自己成長感や介護満足感など肯定的な介護評価を含めて考察する必要があるではないかと思われる。

3. データベースの検索方法及び結果

「介護負担」に関連する先行研究について、中国の文献は主に「中国知網」² (以下、「CNKI」とする) という総合文献データベース (記事と学位論文も扱う) を用い、「万方データベース」 (以下、「万方」とする) と「維普中国語科技データベース」 (以下、「維普」とする) も使用した。

一方、日本の研究現状と動向を参考するため、データベース CiNii と医中誌での文献検索を行った。日本の研究に注目する理由が2つある。1つ目の理由は深刻な認知症問題に陥っている社会現状が中国と同じだからである。もう1つの理由は介護に対する文化的共通点である。社会変動とともに、家族構成の縮小、女性の社会進出の影響で、家族扶養機能が弱っていくといっても、儒教文化圏のなかにある日中両国では「親孝行」というキーワードを根底に、家庭で孝養することの当然視が国民の一定のコンセンサスを得ているからである。

検索方法は、論文タイトル、あるいは抄録やキーワードの中に「介護負担」「認知症高齢者」³ という用語が使われているものを検索した。ヒットした論文は重複しているものを除き、中国語文献は合計101件であり、そのうちCNKIでのヒット数が最も多い。一方、日本の場合には、医中誌はヒット数が多数を占めているデータベースであり、CiNiiでの検索結果を合わせて合計142件に達した。以下、言語別に先行研究をカテゴリー化する。

(1) 中国語文献の検索結果

「介護負担」は、中国語の「照顧負担」と一致するため、「照顧負担」がキーワードとして検索すると同時に、「護理負担」あるいは「護理負担感」という「介護負担」とほぼ同じ意味の単語を通じて検索を行った⁴。検索結果は、3データベースで合計446件が見つかった (表2)。

まず、年代順から見ると、介護負担に関わる研究は次第に増えている傾向が明らかになった。2001年からの10年間、介護負担についての研究はわずか44件である一方、2011-2017年現在では402件の論文があり、9倍を上回った。

続いて、検索し得た先行研究を整理してみれば、「介護負担」についての検討は、主たる研究が介護の対象者を分類基準として行われたものであることが分かった。表2に示したように、先行研究の対象者が病児の介護者、成人の病人の介護者と配偶者に分けて、それぞれの介護負担を研究した論文が最も多い。また、成人の病人の介護負担に関わる論文数が圧倒的多数であり、合計398件で総論文数の89.2%を占めている。それに対し、病児と配偶者の介護負担を研究した論文は少なく、それぞれ23件、13件である。最後に、介護負担の海外研究動向3件と、介護負担尺度の妥当性・信頼性についての研究9件が見つかった。

表2 「介護負担」をめぐる中国語文献の検索結果

対象	類 型	年 代																	合計 (件)
	病 気	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	
病児の 介護負担	小児自閉症											1				1	4	1	7
	小児癲癇												1	1		1	1		4
	脳性小児麻痺												1	1	1				3
	小児慢性疾患									1						1	1	2	4
	心不全児														1	1			2
	小児白血病																1	1	2
	小児喘息																	1	1
成人の病人の 介護者の 介護負担	認知症高齢者			1	1		1	3	4	5	5	8	5	7	12	13	21	15	101
	脳卒中患者				1			3	3	3	1	2	5	4	12	5	7	14	60
	人工透析患者								2					1	2	1	1	7	14
	胃がん患者									1					2		3		6
	消化器がん患者											1							1
	結腸がん患者												2			2			4
	直腸がん患者													3	1		1	5	10
	統合失調症患者									1		1	5	2	5	4	2	5	25
	対麻痺患者									1									1
	心不全患者										1			8	1		2	2	14
	肺がん患者														5	4	1	4	14
	がん患者										1	1	2	2	6	4	7	7	30
	褥瘡患者											2				1			3
	HIV 感染者											1		1		1		1	4
	骨折患者												1			1			2
	脊髄損傷患者												1	1	4		1	3	10
	冠状動脈疾患患者												1			2			3
	糖尿病患者													1	1	4	2	3	11
	うつ病患者													1		1			2
	子宮頸がん患者													1				2	3
	乳がん患者													3	1	1	3	6	14
	肝臓がん患者													1		4	1		6
	自閉症患者													1					1
	股関節炎患者														1	1		1	3
	膀胱がん患者														1				1
	心筋炎患者														1				1
	卵巣がん患者														1				1
	腎臓がん患者																1		1
	脳がん患者															2	2		4
	脾臓がん患者																1		1
	悪性リンパ腫患者																1	1	2
	要介護高齢者									2		1	1	4	12	6	5	14	45
	配偶者の介護負担								1						2	4	2	4	13
	介護負担をめぐる海外の動向						1				1				1				3
	介護負担尺度の妥当性・信頼性						1					1	1	3		1	1	1	9

出所：各データベースの検索結果に基づき筆者作成

一方、成人の病人の介護負担を中心とする研究をさらに分析し、認知症高齢者の介護負担に重点を置く論文が多く、合計 101 件であるということが分かった。そのうち、家族の介護負担の類型及びそれに関与する要因を検討した文献が最も多く、家族介護者の心理的負担、家族介護者への社会的支援、認知症介護と家族虐待などに着目した文献も少なくなかった（表3）。

また、研究の掲載経路を整理してみると、上述した 101 件の文献のなかで、25 件が大学院

表3 認知症高齢者の介護負担に関する研究

テーマ	掲載	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	合計 (件)
家族の介護負担及びそれに 関与する要因	雑誌投稿	1			1		1	3	2	5		2	2	6	9	5	37
	学位論文						1				2	1	3	1	3	1	12
家族介護者の心理的負 担	雑誌投稿		1			1	2	1			1		2	2	1	2	13
	学位論文					1				1				1	2		5
家族介護者への社会的 支援	雑誌投稿					1			1	1			1		3	1	8
	学位論文											2			1	2	5
認知症介護と家族虐待	雑誌投稿											2		2		1	5
	学位論文											1					1
認知症高齢者の家族介 護者の疲労感	雑誌投稿										1	1		1	1		4
	学位論文																
認知症状と家族介護者 負担との関連性	雑誌投稿							1		1						1	3
	学位論文																
認知症高齢者の家族の介護 負担に関する文献レビュー	雑誌投稿												2		1		3
	学位論文																
認知症に関する知識と家族 介護者の負担感との関連性	雑誌投稿																
	学位論文															1	1
家族関係と認知症介護 負担感との関連性	雑誌投稿								1								1
	学位論文																
認知症高齢者の家族介護 者の負担感の日中比較	雑誌投稿								1								1
	学位論文																
認知症高齢者を介護す る介護員の負担感	雑誌投稿															1	1
	学位論文										1						1
合 計		1	1		1	3	4	5	5	8	5	7	12	13	21	15	101

出所：各データベースの検索結果に基づき筆者作成

表4 認知症高齢者を抱える家族介護者の介護負担に関する学位論文

学 校	所在地	専 攻	論文数(件)	備 考
中南大学	湖南・長沙	看護学	5	博士論文1件
重慶医科大学	重 慶	看護学	5	
新郷医学院	河南・新郷	看護学	2	
南昌大学	江西・南昌	公共管理	2	
福建医科大学	福建・福州	看護学	2	
長春工業大学	吉林・長春	社会工作 ⁵⁾	2	
河北医科大学	河北・石家荘	看護学	1	
中国協和医科大学	北 京	看護学	1	
吉林大学	吉林・長春	看護学	1	
沈陽医学院	遼寧・沈陽	疫 学	1	
山西医科大学	山西・太原	疫 学	1	
南京中医葯大学	江蘇・南京	中医内科	1	
遼寧大学	遼寧・沈陽	社会工作	1	

出所：各データベースの検索結果に基づき筆者作成

学位論文（博士 1 件，修士 24 件）であることが分かった。表 4 を示したよう，医学の視点から見る学位論文が多数を占める一方，雑誌投稿を整理した結果も同じく，医学分野の研究成果が最も目立ち，掲載量が 2 件以上の雑誌はほぼ医学関係のものである（表 5）。

表 5 掲載量 2 件以上の雑誌一覧

雑誌名	論文数（件）	比率（％）
『中国老年学雑誌』	11	10.89
『全科護理』	3	2.97
『中国護理管理』	3	2.97
『護理学雑誌』	3	2.97
『中国医薬指南』	2	1.98
『護理研究』	2	1.98
『護理学報』	2	1.98
『中華護理雑誌』	2	1.98
『護理管理雑誌』	2	1.98
『中国心理衛生雑誌』	2	1.98
『臨床合理用薬雑誌』	2	1.98
『中国全科医学』	2	1.98

出所：各データベースの検索結果に基づき筆者作成

（2）日本語文献の検索結果

日本語文献の検索は医中誌，CiNii データベースを用い，「認知症高齢者」「家族介護者」「介護負担・ストレス」をキーワードをとし，様々な組み合わせで幅広く先行研究を検索した。その結果，2017 年 10 月現在，関連する文献は医中誌 116 件，CiNii26 件となっている。重複文献の一方を除外し，最終的に 142 件を検討した（表 6）。

表 6 日本語文献の検索結果

キーワード	データベース	2001-2005	2006-2010	2011-2015	2016-2017	合計（件）
介護負担＋ 認知症高齢者	医中誌	8	114	199	57	378
	CiNii	6	47	59	10	122
介護負担＋ 認知症高齢者 ＋家族介護者	医中誌	1	32	71	12	116
	CiNii	0	9	16	1	26
家族介護者＋ 認知症高齢者 ＋支援	医中誌	1	29	64	22	116
	CiNii	0	6	12	3	21

注：各データベースの検索結果に基づき筆者作成

4. 先行研究の到達点

結論から述べると、日中両国の先行研究をレビューした結果、国を問わず、認知症高齢者の家族介護者が深刻な状況に陥り、身体的負担をはじめ、精神的負担、時間的負担、経済的負担など様々な問題に直面している現状といえる。

(1) 中国の先行研究の到達点

繰り返し述べたように、用語にやや違いがあるが、「介護負担」を「身体的負担」「精神的負担」「時間的負担」「経済的負担」に分けて検討した論文が多数であるということが明らかになっている(呉他, 1995; 楊, 2009; 鄒, 2014)。その中核となる概念の「介護負担」をめぐる研究が徐々に重視されてきた傾向があるということは1つの到達点といえる。特に2013年に改訂された「高齢者權益保障法」の実施によって、家族の扶養義務が再強調され、さらに「精神的扶養」いわゆる「常回家看看」⁶という新たな条項が作り出された。それを機に、「介護負担」に関わる研究が一時的に盛んである。

また、認知症高齢者の家族介護者の介護負担に関与する諸要因が明らかになったことはもう1つの到達点と思われる。周辺／行動・心理症状(以下、「BPSD」とする)をはじめ、家族介護者の性別・教育レベル、介護年数、副介護者の有無など要素が介護負担に影響を与えたということが明らかになっている(伍他, 2007; 馮他, 2011)。そのなかで、特に家族介護者の教育レベルに注目した文献がいくつかあった。家族介護者の教育レベルと身体的負担との負の相関関係が検証された(鐘, 2010; 伍他, 2015)。それに対し、教育レベルと精神的負担、時間的負担との正の相関関係があるということも分かった(付他, 2007)。教育レベルが高くなれば、認知症高齢者を介護していくなかで、家族介護者は身体的負担を軽減する新たな介護方法が理解しやすくなる。一方、教育レベルが高いと、家族介護者側の社交的ニーズと自己発展のニーズが高いため、認知症高齢者の介護ではほぼ昼夜24時間に縛られており、精神的負担、時間的負担が強く感じられるという。

それだけでなく、家庭の経済力が重要視すべき要因の1つと指摘された。安他(2005)は経済的余裕のある家庭において、認知症高齢者のBPSDが遅く現れており、家族の介護負担が比較的軽く感じられるようなケースが多いということを示した。その理由は認知症高齢者、特に初期の認知症高齢者を通院させ続ければ、認知症症状が緩和できるようになる可能性が高いからである。一方、ヘルパーを雇うことによって、介護に生じた身体的負担が軽減できたという。しかし、通院であれ、ヘルパーを雇うのであれ、どちらも金銭に関わるため、経済的余裕のない家庭には与えられないのである。

（2）日本の先行研究の到達点

中国の研究結論と同じ、日本の場合にも認知症高齢者の家族介護者が過重な介護負担を持っていることはすでに明らかになった。湯原（2013）が日本全国 30 紙の新聞記事を集計し、分析した結果、介護が背景にあり、被害者が 60 歳以上の殺人や心中は 1998～2011 年の 14 年間に少なくとも 550 件が生じたことが分かった。そのうち、被害者に認知症が疑われる事件は、記事から明らかになったものだけでも 176 件、約 32% を占めている。

具体的に、その家族介護者らはどのような介護負担を抱えているのだろうか。「認知症の介護家族が求める家族支援のあり方研究事業報告書」（2012）によると、在宅介護における困難は最も多いのが「ストレスや疲労感が増加した」（73.3%）という。次は「自由に使える時間がなくなった」（51.9%）、「睡眠時間が減った」（41.6%）、「体調が悪かった」（39.0%）、「時間のやりくりが難しくなった」（34.0%）、「支出が増えた」（23.5%）という順になっている。さらに、年齢別から見ると、30 歳代には「子供の行事に出られない」という回答があり、年齢的に仕事や子育てと両立する場合が多いことが負担感を強くすると推測される（渡辺他，2010）。

一方、介護負担感に関与する要因を解明した複数の文献があった。「核家族」「自立」「個人主義」というコンセプトがはるかに発達した欧米と異なり、日本において、ジェンダー問題が介護負担に大きな影響に及ぼすと思われる。一柳の調査によると、介護者の性差と介護負担感との間に関連が見られたという。一般的に言えば、女性の介護負担感が高い（藤原他，2014；菅沼，2014；高原，2013）。これは、日本人独特の介護者の心情として、家族の面倒は家族、特に女性がみるという義務感の強さや家を守るという責任感の重さが女性に押し付けられるからである（松岡・村井，2014）。

また、介護年数、経済力、副介護者の有無、利用できるサービス数などが介護負担に与える重要な要素と指摘された（藤原他，2011；黒澤，2011；西村，2008）。認知症高齢者の介護は、年数が長くなればなるほど、家族介護者の心を動揺するケースが珍しくなくなっており、かつ余裕のない経済力のため、グループホームを利用しようと利用できないこともよく取り上げられたのである。

なお、日本一国の調査に限らず、国際比較研究も見つけられた。深山他（2014）が日中両国で質問紙調査を行った結果、日本より中国の認知症高齢者の家族介護者の負担感が有意に低かったということである。その理由というと、中国の方がストレスマネジメントスタイルを多様に活用しているのではないかと指摘である。東アジアの境界を越えて、細川他（2017）は日中独の認知症高齢者をめぐる実態と施策を比較している。行われた国際調査によって、中国では認知症高齢者への対応が西洋医学だけでなく、中医学（鍼灸や漢方薬）あるいは中西医结合といった医療手段を使用していることが確認された。しかし、日独が認知症高齢者の家族に対して「認知症カフェ」という共通サービスがあるのに対し、中国の家族介護者への支援はまだ少ない。

5. 先行研究の限界

(1) 日中研究の共通の限界

日中両国ともに家族扶養意識と介護負担との関連性を解明することを目的とする文献は少ないである。東アジア地域において、文化的・歴史的特徴として位置づけられている儒教に依拠する「孝」に関する認知やその実践としての家族扶養を考える際には、介護場面における介護者の家族扶養意識の機能的な特徴を明らかにすることによって、高齢者の家族介護に関連した社会福祉サービスの展開にとっては重要な知見を提供できると思われる(尹他, 2008)。しかし、その問題に触れた先行研究はほとんど見られない。

中国では、家族扶養意識の変容及びそれが家族扶養に及ぼす影響を検討した文献は少なくないが、その意識の変容と介護負担との関係において、影響が与えられるのか、与えられれば二者はどのような関係あるかについて、言及した文献は非常に少ない。日本も同じく、家族扶養意識及びその変容、さらにそれが高齢者扶養に与える影響をめぐる議論は多かったが、それが家族介護者の潜在的ストレスや肯定・否定的なストレスに対してどのような関係にあるのかについては、ほとんど検討されていない。

また、中国では、認知症高齢者の介護に対する肯定的な評価を論じた文献は一件も見つからなかった。日本の場合には介護に対する肯定的評価、あるいは「介護肯定感」を中心に検討した文献があるが、認知症高齢者の介護に対する肯定的評価は検討不足である。認知症高齢者の介護は想定外の困難が極めて多く、認知症症状、とりわけBPSDによって、家族介護者がより重い負担を持つことが推定された。だからといっても、介護負担というのは決して否定的なイメージばかりとは言い切れない。介護から生じる喜びや希望も同時にもたらされる(津止, 2009)。大切な人を気遣い、その人の人生に寄り添うことを決断し、日々生じる様々な困難を乗り越えて人間的な成長を遂げることができた、と語る者は少なくないのである(湯原, 2014)。今後、介護負担をめぐる研究は多面的に検討すべきではないかと筆者は考える。

(2) 国別からみる研究の限界

日本の場合は、研究対象者の問題が最も多く見られた。日中両国ともに、家族が認知症高齢者を介護しているという社会現状にあるなかで、日本で行われた調査の研究対象者の選定にあつては、「認知症の人と家族の会」(以下、「家族の会」とする)に通っている会員から抽出された研究が最も多かった(黒澤, 2011; 2015)。しかし、「家族の会」など当事者団体に参加していない家族介護者のニーズはどのようなものであろうか。当事者団体に参加することが家族介護者の負担を軽減できると想定されるため、支援のあり方を考える際には、こうした研究の結論は一言では言えないのではないかと筆者は考える。

一方、日本の研究と比べると、中国のほうは残っている課題が多い。第一に、介護負担に関

わる研究重視の問題である。確かに、中国における認知症高齢者の介護負担に関連する研究が上昇傾向を呈しているが、絶対数からみると、日本または欧米の研究と比べ、中国の研究は動き始めたにすぎない（表7）。

表7 認知症高齢者の家族介護者の介護負担に関する文献統計

言 語	データベース	2001-2005	2006-2010	2011-2015	2016-2017	合計（件）
中国語	CNKI	2	15	31	29	77
	万 方	0	3	9	6	18
	維 普	0	0	5	1	6
日本語	医中誌 Web	1	32	71	12	116
	CiNii	0	9	16	1	26
英 文	PubMed	91	379	607	578	1655
	Crossref	68	352	711	592	1723
	Google Scholar	103	512	924	714	2253

注：各データベースの検索結果に基づき筆者作成

第二に研究方法の問題である。検索結果を示したように、量的調査の結果に基づいた研究が多数である。すべての中国語文献のなかで、質的調査（白他，2006；喬他，2016；張，2017）を用いて行われた先行研究はわずか3件しかないのである。むろん、マクロな視点から見ると、アンケート調査を行い、統計データを分析したうえで、家族介護者を抱えている介護負担の種類、かつ関与の要因が整えられることは確かである。それに対し、深掘りする必要がある価値観やインサイトは、量的調査で見逃されやすくなる恐れがあると思われる。

第三に学問視点の偏りである。医学の視点はもちろん、日本の場合は社会政策や社会福祉など多様な視点から論じた研究も少なくないのである。それに対し、中国では人文社会科学の視点から検討した文献が極めて少ない。雑誌投稿でも学位論文でも、ともに医学分野の研究成果が最も目立っている。医学的手段によって、認知症症状を緩和させることにしたがって、家族介護者の負担を減らすのは一種の支援と言えるかもしれないが、一人の人間としての家族介護者を支援するために、より多くの側面からみる必要があるのではないかと筆者は思う。

また、研究視野をさらに広げる必要がある。検索結果によって、中国において介護負担をめぐる海外の研究動向を言及した文献が少ないのである。中国の独特な社会事情のため、本国の状況を掘り下げる必要があるが、他国の経験を見做すわけではない。特に文化的に一貫性のある日韓の経験を研究し、中国に何らかの示唆を与えることができると考えられる。

第四には、無視された地域特性である。経済、人口の二重性に生じた都市部と農村部の格差はともかく、同じく都市部あるいは農村部にいるとしても、自治体ごとの経済発展状況をはじめ、高齢化現状、自治体レベルの高齢者福祉政策の仕組み、非営利組織の活躍度などがかなり

違っている。それは当地域の認知症高齢者の介護者にどのような影響を与えられるか、ということの解明する必要があると思われる。

〔注〕

- 1 その他負担として使われる用語には“strain”“stress”“distress”“impact”“effect”等がある。
- 2 「中国知網」は、中国の学術情報を整備、統合することにより、中国内外のあらゆる単位の研究機関や研究者がネットワークを利用して、お互いに学術情報を交換、利用し合えるオンラインシステムである。
- 3 用語が統一されていないため、本稿を指す先行研究は、「認知症高齢者」をはじめ、「痴呆老人」「失智老人」「アルツハイマー老人」「失能失智老人」をキーワードとして行った検索結果である。
- 4 中国では、「照顧」「護理」が「介護」とほぼ同じ意味で使われているため、中国の文献を検索した際に、「照顧負担」あるいは「護理負担」をキーワードとして論文検索を行った。
- 5 中国における新興の専攻である「社会工作」とは、ソーシャルワーカー（中国語「社会工作者」、日本では「社会福祉士」）の育成を目的とする専攻である。
- 6 「常回家看看」とは、度々親元に戻るという意味を指す。

〔日本語参考文献〕

- 尹靖水・中嶋和夫・金貞淑・嚴基郁・黒木保博（2008）「老親扶養意識と介護に関連するストレス評価の関係」『評論・社会科学』, 85(3)：67-81
- 黒澤直子（2011）「認知症高齢者の家族介護者への支援に関する現状と課題」『人間福祉研究』, 14：121-128
- 黒澤直子（2015）「認知症家族介護者における困難への対処——家族会への調査——」『人間福祉研究』, 18：107-114
- 菅沼真由美・新田静江（2014）「認知症高齢者の女性介護者に対する家族介護者間交流プログラムの効果」『老年看護学』, 19(1)：81-90
- 高原昭（2013）「認知症の人と暮らす人の介護うつ」『老年社会科学』, 34(4)：516-521
- 張平平・正木治恵（2007）「中国における認知症高齢者看護の現状と課題——文献を通して——」『千葉大学看護学部紀要』, 29：67-71
- 津止正敏（2009）「家族介護者支援のリアリティ 男性介護者からの提言」『高齢者虐待防止研究』, 5(1)：32-38
- 西村洋子・姜菊花（2008）「認知症高齢者家族介護者への社会的サポートに関する研究——家族サービスへの評価とストレス——」『広島国際大学医療福祉学科紀要』, 4：83-110
- 羽生生宗（2011）『レスパイア介護者支援政策形成——家族介護者の負担感分析』日本評論社
- 藤原和彦・上城憲司・小池伸一・山口隆司・原口健三（2014）「在宅認知症高齢者の家族介護者における介護負担感とコーピングの性差の検討——男性介護者・女性介護者の特徴——」『日本作業法研究学会雑誌』, 17(1)：31-40
- 藤原和彦・上城憲司・小松洋平・江渡文（2011）「在宅認知症高齢者を介護する家族の家族機能と介護負担の関連性分析」『福岡国際医療福祉学院紀要』, 7：22-27
- 深山つかさ・小野塚元子・奥野茂代（2014）「日本と中国における認知症高齢者の家族介護者のストレスマネジメントについての検討——ストレスマネジメントスタイルと介護負担の関係——」『京都橘大学研究紀要』, 41：257-274

- 細川淳嗣・西田征治・國定美香・三原博光・原田俊英（2017）「日本・ドイツ・中国の認知症高齢者の実態と施策の国際調査」県立広島大学保健福祉学部誌『人間と科学』, 17(1) : 73-82
- 松岡広子・村井美紀（2014）「認知症高齢者の家族介護者の心情——文献研究が明らかにするその経時的様相——」『日本認知症ケア学会誌』, 12(4) : 796-803
- 湯原悦子（2013）「介護うつ：認知症介護における介護者支援のための課題——司法福祉の立場から——」『老年社会科学』, 34(4) : 525-530
- 湯原悦子（2014）「家族介護者支援の理論的根拠」『日本福祉大学社会福祉論集』130 : 1-14
- 渡辺朝子・児玉喜久枝・松本支智江（2010）「家族介護者の持つ介護負担感と介護肯定感に関する検討——アンケート調査の分析から」『日本看護学会論文集・地域看護』, 41 : 53-56

〔中国語参考文献〕

- 安翠霞・于欣（2005）「痴呆患者経済負担及相關因素研究」『中国心理衛生雜誌』19(9) : 592-594
- 白姣姣・丁儉・王崢（2006）「对老年痴呆親族照顧者真实體驗的質性研究」『中華護理雜誌』, 21(12) : 1065-1069
- 馮曉敏・王曙紅・劉風蘭・曾翠・張京慧（2011）「痴呆照顧者負擔的影響因素及其幹預研究進展」『護理學雜誌』, 26(3) : 88-91
- 付芸・岳鵬・柳秋実・王木蘭・尚少梅・于欣（2007）「痴呆患者配偶的心理負担及相關因素」『中国心理衛生雜誌』, 21(4) : 267-270
- 喬雨晨・常紅・孟茜（2016）「痴呆患者照顧者需求的質性研究」『解放軍護理雜誌』, 47(3) : 19-22
- 屈秋民・喬晋・楊劍波・韓建峰・羅国剛・張輝・武成斌・王小娟・霍東紅・楊華・李正儀・吳文源・張明園・何燕鈴・俞勤奮（1995）「老年性痴呆病人照料者的負担及其影響因素研究」『中国心理衛生雜誌』, 9(2) : 49-52
- 伍星・許秀峰・余發春（2015）「老年痴呆照料者負担及其相關因素」『中華老年學雜誌』, 35(7) : 4019-4021
- 伍毅・張懷惠・李小青・俞琳・董愛珍・李秀英・陳一郡・鄭琰婷・畢旭軍（2007）「老年期痴呆患者家屬生存質量及其影響因素分析」『神經疾病与精神衛生』, 7(6) : 453-456
- 楊帆・戴興海（2009）「老年期痴呆家屬生活質量的探討」『臨床精神醫學雜誌』, 19(4) : 257-258
- 鐘碧橙・鄒淑珍（2010）「老年痴呆患者照顧者負担与需求的相關性分析」『護理學雜誌・綜合版』25(1) : 16-18
- 張健（2017）「失智老人家庭照顧者的照顧困境研究——基于L医院アルツハイマー患者家族的經驗研究」, 中国青年政治学院修士論文
- 鄒健（2014）「痴呆患者家庭照顧者負担現狀及影響因素研究」, 中南大学護理學修士論文

（ひょう い 社会福祉学研究科社会福祉学専攻博士後期課程）

（指導教員：朴 光駿 教授）

2018年9月26日受理